

芸豪烈伝その1 澤孝子さわ たかこ これからでも男で苦勞して大泣きしてみたい

浪曲の危機が叫ばれて久しいが、浪曲界の立て役者である演者の声が、なかなか聞こえてこない。
政治、経済、家族のありかたなどが大きく変わりつつある現在を、浪曲師はどう生きているのだろう。

浪曲師の舞台姿を撮り続けて五年、森幸一カメラマンの入魂の写真と新進気鋭の演芸ライター・おさだ衛氏の軽妙な文章で、浪曲師の「いま」をお案しみて下さい。

*

「そんなことをしていたら、わたしみたいななっちゃうわよ!」
今年4月29日の木馬亭での「玉川福助を励ます会」。舞台上の福助は師匠や諸先輩から祝辞や助言を送られていた。「男の方はつつしんで芸に励め」というアドバイスがあった時だった。間髪を入れずに客席後方から大きな声が掛かった。冒頭の文句がそうで、声の主は当日は客として来ていた澤孝子だった。

「あれは同じ道を志した福助さんへ送った、がんばれという応援、エールだったの。」

恋愛は諦める、は納得できません。

大酒も飲んで恋も芸も同時にうまくいくのが理想よね。私も男狂いをして芸も上達したかったけど、恋のほうがかうまくいかなかったのがジレンマね」

このインタビュイーは、しょっぱなから男女のはなしというクライマックスだ。澤さんとボクが話をするのは初めて。色恋のはなしには拒絶反応を示す人がいるから気をつけないとな。だが仕事だ。当たって砕ける、番場の忠太郎。おかみさん、じゃねえ、澤さん。いままでたくさん恋をしたんでしょうね。

「そりゃ、年齢相応にありましたよ。でもね、男はみえっぱりだから、結局は女に寄ってこられないんでしょうね。私はこれからでも男で苦勞して大泣きしたいの。」

家庭のぬくもりが無いから淋しいでしょうとも言われますけど、負け惜しみでもないけど淋しくありませんよ。私にはステージでの充実感があるから「滝の白糸」の水島友(白糸)、「お民の度胸」のお民、「さくらさくら」の吉岡弥生、「一本刀土俵入」のお薦、將軍・家光の健康祈願に葉断ちする「春日局」。澤孝子の描く女性像は苛烈な情熱家だ。彼女が舞台上に立つと客席にも快い緊張感が漂う。客席のボクも彼女の芸



さわ・たかこ。千葉県銚子の出身。二代・広沢菊春に14歳で入門。「毎日、朝晩三時間は稽古してました」一言一句に血が通い、豊穡な物語には細かい神経が行き届いている。浪曲界の牽引車の一人。独身。



左甚五郎の滑稽ネタから偉人伝と演題の幅は広い。「私は浪曲オタクじゃないですよ。人生は楽しくいきたいですね」

の前に背筋がピンと伸びる。「目標は春野百合子先生なの。先生とはエトが一緒で私がひとまわり下です。12年後は私も、いまの先生のようにりっっぱな浪曲がやればいいなと思っています。りりしく胸を張ってね」

11月13日(日)、木馬亭で「第6回・浪花ぶし澤孝子の会」が開かれる。美人が語る女の世界、がキャッチフレーズ。出演は澤孝子の他に、葵わか葉、玉川お福。

「当日は、いい女三人が、女性のさまざまな生き方を語りますよ。わか葉さんは「あなたより強くてごめんなさい」という演題だけど、このタイトルだけでも面白そうでしょ」
新人のお福の起用は抜擢ですね。

「お福さんは大病を乗り越えて(大手術を二回、同時に体験)浪曲に残りの半生をかけています。その一途な生き方に私が心うたれて、今回の出演をお願いしました」

女心に女が惚れて、という女・国定忠治ばりの心意気か。澤本人も「雪おんな」という新作で、いままでにならない型を見せる、と張り切っている。

さて、それでは浪曲の未来について聞いてみよう。浪曲がまた隆盛を誇る時期がくるのだろうか。

「もう、かつての全盛のようにはならないでしょうね。」

コンピューター時代のいま、若い人は30分もおとなしく浪曲を聞いてくれませんよ。でもね、人間が人生経験を積んで、ある年齢に達したら浪曲は理解されますよ。浪曲が必要とされる時期は来ますし、浪曲の占める地位は決して小さくないと信じているんです」

世の中の機械化が進んでも男と女がいる限り、ロマンスの種はつきない。人間同士のふれあいも、いま以上に大事にされるはず。人生の妙味を語る浪曲は、やりかた次第で立派に後世に残っていくはずだが……。

澤孝子の澤は、師匠の広澤菊春(故

森幸一(もり・こういち)。今年四月、新宿で浪曲師の舞台写真展「浪曲三十六花撰」を開催、絶賛を浴びた。浪曲鑑賞歴二十五年。東京生まれ。四十六歳。

おさだ衛(まもる)。木馬亭の観客歴五年。月に二日は前読みからお掃除番まで、しっかりと聞く。出版社勤務の四十二歳。宮城県出身。妻子あり。



厳しい修業と自己抑制が華麗な芸を生む。
十月十日、浅草木馬亭前にて

人、天龍三郎の実兄)の澤から名づけたもの(孝子は本名)。

「師匠は芸人らしい、いい男だったですよ。きれいで、おしゃれで。家でパンツ一枚でも粋でした。「貧乏しても貧乏の格好をするな」が口ぐせでした。人の面倒が見られるような人間になれば、ともいつていました」

師匠の衣鉢を継いで、芸をさらに大きくしたいという澤。

「師匠のように上品で、客にも時流にも媚びなくて、丸くて、ふっくらした芸がしたいですね」

なるほど、感心も得心もした。一流の芸の持ち主は人間も一流だと、ありそうでなかなかない結論に達しました。澤さん、ありがとうございます。

おわり

海苔は



磯や磯

1/52

広島市安芸区矢野新町2-3-12
(東部工業団地内) ☎082-884-2248